



北の住まいるタウン

第13回

参加
無料

まちづくりメイヤーズフォーラム

テーマ：持続可能なまちの実現に向けた未来戦略

定員200名(会場)

オンライン併用

日時

2025年10月24日(金) 14:00-17:00 (13:20開場)

会場

札幌ビューホテル大通公園 地下2階ピアリッジホール(札幌市中央区大通西8丁目)

北海道では、人口減少・少子高齢化や広域分散型の都市構造などの課題を踏まえ、誰もが心豊かに住み続けることができ、安全・安心で暮らしやすく、資源・エネルギー循環が進んだ効率的なまち「北の住まいるタウン」の実現に向け様々な取組を行っており、その一つである当フォーラムは今年で13回目を迎えます。

今年度のテーマは「持続可能なまちの実現に向けた未来戦略」としました。現在、北海道では、人口減少に伴う地域の衰退により、将来的なまちの存続が大きな課題となっています。地域の強みを活かした持続可能なまちづくりに向けての戦略、取組などについて考えます。

基調講演

「めぐり歩いて楽しいまちと建築」

有限会社ナスカー級建築士事務所 代表取締役
早稲田大学栄誉フェロー・名誉教授

ふるや のがあき
古谷 誠章氏



プログラム

14:00～ 開会挨拶

14:05～ 基調講演「めぐり歩いて楽しいまちと建築」

有限会社ナスカー級建築士事務所 代表取締役 古谷 誠章氏

14:45～ 特別講演「持続可能なまちにするには何が大切なのか」

国土交通省都市局 都市環境課 課長補佐 今 佐和子氏

15:00～ 事例紹介

「次世代に繋ぐ『共創・共働』のまちづくり」 沼田町長 横山 茂氏

「次の100年を創造する地域の家族と繋がりをつくる

～既存資源のシェアリングによるワーケーション促進・超長期的関係人口創出～

厚沢部町長 佐藤 正秀氏

「『うらほろスタイル』が過疎地域を変える」 浦幌町長 井上 亨氏

15:45～ 休憩

15:55～ パネルディスカッション

●コーディネーター:北海道大学 理事・副学長 瀬戸口 剛氏

●パネリスト:上記講演及び事例紹介の登壇者

16:55～ 閉会挨拶

申込締切:10/16(木)

申し込み・参加方法の詳細は
裏面をご確認ください

土木学会認定CPDプログラム

北海道建築士会認定CPDプログラム



主催:北海道、一般財団法人建設技術センター

後援:国土交通省北海道開発局、(地独)北海道立総合研究機構、北海道市長会、北海道町村会、(公社)日本都市計画学会北海道支部

第13回

まちづくりメイヤーズフォーラム

申し込み・参加方法

○会場参加(先着200名)

- ①申し込みサイトからお申し込みください。
- ②当日、会場へお越しください。

○オンライン参加

- ①申し込みサイトからお申し込みください。
- ②申し込み時に登録していただいたメールアドレスへ接続方法をご連絡いたしますので、当日までにZoomの視聴環境をご準備ください。
- ③当日、Zoomから接続してご参加ください。

▶申し込みサイト

<https://sites3.net-convention.com/mayorsforum2025/>



▶問合せ先

<申し込み・参加方法について>

株式会社コンベンションリンケージ

TEL: 011-272-2151

メール: hokkaido-seminar@c-linkage.co.jp

<開催内容について>

北海道建設部建設政策局建設政策課

担当: 上山(かみやま)

TEL: 011-231-4111(内線29-671)

CPD申請

●土木学会CPD単位登録申請

受講後、フォーラムで得られた初見(学びや気づき)を100文字以上でまとめ、主催者へ提出してください。[2.7単位取得]

●北海道建築士会CPD単位登録申請

当日、会場で建築士会CPD番号(または建築士番号等)を確認させていただきます。[3.0単位取得]

※他団体に提出する場合の方法については、各提出先の団体に事前にご確認ください。

会場地図



登壇者のご紹介

古谷 誠章氏 (有限会社ナスカー級建築士事務所 代表取締役)

早稲田大学名誉フェロー・名誉教授。長年にわたり教育と建築の設計を車の両輪として活動し、建築単体のデザインにとどまらず、まちづくりや地域再生など、学生と共に地域社会と連携する事業に積極的に取り組んできた。北海道沼田町では町の診療所、デイサービス、町民の集会施設などを複合した、ウォーカブルなコンパクトシティの核となる、町民にとっての「大きな家」のような「暮らしの安心センター・あるくらす」を設計。

今 佐和子氏 (国土交通省都市局都市環境課 課長補佐)



IT企業を経て、2014年国土交通省入省。インフラツーリズムなど観光政策を担当。2018年より都市局街路交通施設課にて車中心から人中心、ウォーカブルなまちづくりを全国に広める政策に携わる。2024年4月より都市環境課の立ち上げ準備室を経て7月より現職。ゼロスタートの組織で環境×まちづくりをどう広めて進めていくか模索中。プライベートでは地元小山市で子どもも大人も双方が楽しめる公共空間活用に挑戦。

横山 茂氏 (沼田町長)



沼田町では、町民がいつまでも安心して暮らし続けることができる「住民福祉の増進」を基本とした中で、医療・福祉のみならず、住宅や買い物、移動などの様々な課題に対応するため、歩いて暮らせる距離に必要な施設、サービス、アイデア等を集約し、活気ある中心市街地の形成やコミュニティの活性化、更に行政サービスの効率性を高め、コンパクトで効率的なまちづくりを目指す、「沼田町農村型コンパクトエコタウン構想」を掲げている。

佐藤 正秀氏 (厚沢部町長)



これまでの移住促進施策や子育て支援策に加え、2022年度から「保育園留学」を本格導入し、関係人口の増加に向けて取り組んでいる。保育園留学者数は増加傾向にあり、経済効果も大きい。これまでに保育園留学を体験した4家族が移住している。保育園留学の実績は右肩あがりだが、課題も見えてきた。需要はあるものの受入住宅が不足しているため、多くの待機者が存在する。今後は、受け入れ態勢の強化により更なる関係人口の拡大を目指していく。

井上 亨氏 (浦幌町長)



浦幌町では「うらほろスタイル」という町内小中学生を対象とした教育プログラムを進めている。これは、町の歴史、産業、食など義務教育期間中に学ぶ機会を与えることで、町の魅力を知り、愛着を育むことを目的としている。浦幌高校が廃校になり、浦幌で育った若者は町を離れてしまう。少しでも流出を食い止めるためにと始めたこの取組みは今年で18年目を迎える。過疎地域が人口減少に抗う手段として更なる進化を目指す。

瀬戸口 剛氏 (北海道大学 理事・副学長)



早稲田大学理工学研究科博士課程修了。博士(工学)。北海道大学理工学研究院長を経て平成31/令和元年度より工学研究院長、工学院院长、工学部長を歴任し、令和6年度より現職。平成26年に日本建築学会賞、平成27年に文部科学大臣表彰科学技術賞、平成28年に国土交通大臣表彰国土技術開発省を受賞。専門は都市・地域計画。「北の住まいるタウン」検討協議会の座長も務めている。